

## 令和4年度第1回高知市環境審議会 会議録(要旨)

1 日時 令和4年5月26日(木)13:00~15:00

2 場所 高知市本庁舎6階 612・613 大会議室

3 出席者 [委員]※敬称略

川田勲(会長), 松本明, 池田康友, 岡林南洋, 北山めぐみ, 須内宗一, 田中佐和子,  
長尾達雄, 中田陽子, 堀澤栄, 武藤信之  
—以上, 委員 11 名出席で審議会成立  
(欠席:安部順子, 猪野文章)

[事務局]

環境部:高岡部長, 児玉副部長

新エネルギー・環境政策課:田村課長, 田中課長補佐, 徳能係長, 橋村主査

[庁内出席者]

環境保全課 中山課長・小原課長補佐, 清掃工場 戸梶工場長,

環境業務課 坂吉課長, 廃棄物対策課 藤村課長,

環境施設対策課 小畑課長・谷副参事

東部環境センター 山本所長, みどり課 畑山課長, 都市計画課 山本課長,

農林水産課 島崎課長, 鏡地域振興課 川上課長

4 議題

- (1) 第二次高知市環境基本計画の施策評価について
- (2) 第三次高知市環境基本計画の策定について

5 配布資料

- (1) 会次第
- (2) 高知市環境審議会委員名簿
- (3) 【資料1】高知市環境審議会への諮問
- (4) 【資料2】国・県の動向及び第二次高知市環境基本計画の概要
- (5) 【資料3】第二次高知市環境基本計画 施策の総合評価一覧, 取組状況の点検・評価
- (6) 【資料4】第三次高知市環境基本計画の策定に向けて
- (7) 【資料5】第三次高知市環境基本計画 施策体系のたたき台
- (8) 【資料6】第三次高知市環境基本計画 策定スケジュール
- (9) 【参考資料1】第二次高知市環境基本計画

- (10) 【参考資料2】高知市環境基本条例
- (11) 【参考資料3】第五次環境基本計画の概要(環境省)
- (12) 環境基本計画に係る意見書

## 6 審議内容

- (1) 第二次高知市環境基本計画の施策評価について(資料2~3)

〈池田委員〉

施策 2「森林の保全・整備」について B 評価となっているが、現在の取組をさらに強化しつつ、加えて、全くこれまでの発想と違う手立てがある場合に、現状を引き続き強化しながら、さらに別の角度の森林保全の対策が必要という場合、B 評価としてよいのか。

また、保全・整備については、森林組合としても林地を供給する、中持ちする立場に参入すべき力をつけていきたいと思っている。高知市側も目的が変われば担当部局も変わると思うが、そちらとも連携をしながら、今後は、保全すべき目的に応じて、しかるべき所有者に相続時などに山の土地そのものをしっかり持っていただけるような対策について、今後検討の余地があるということも含めた B 評価としてほしい。

〈事務局〉

B 評価は、現在の取組を強化し、施策成果を向上させるなので、そのまま続けていくという風にも取れるが、新しい視点からの取組は今後出てくると思うので、その点も取り入れながらやっていくという意味で、B 評価としている。

〈武藤委員〉

施策の評価基準について、A の読み方は、取組成果の維持となると、現状維持という風に読み、発展性に消極的な感じに見えるが、そうではないと思うので、補足をいただきたい。

〈事務局〉

A 評価は、数値目標に対する成果が高いレベルで達成できており、その状態を維持するという意味合いを含めて、現状維持という表現を用いている。

〈須内委員〉

数値目標の達成状況が、目標値が令和4年度であるとすれば、直近値は令和4年度もしくは令和3年度ではないのか。

〈事務局〉

施策評価の作業自体は昨年度から取り組んでおり、令和3年度の実績が出ていない状態のため、令和2年度の実績を用いて作業したため、令和2年度が直近値ということになっている。

〈須内委員〉

施策3「里山の保全と再生」について、C評価となっているが、里山保全条例に合わせた政策施策をやっており、今回新たに令和3年度から里山利活用事業も始まっていることから、B評価ではないか。

〈事務局〉

里山保全条例制定以降、それぞれの保全の取組ができているが、所有者の高齢化等により、保全活動が下火になってきている。そんな中、令和3年度から新たに始めた里山利活用事業は、単に里山の維持だけではなく、里山の良さを知ってもらうという啓発も含め、里山を実際に利用しようというところに繋げていくという新たな取組を入れたという意味で、C評価としている。

〈長尾委員〉

春野の小松の沼の問題は、工事用土砂だけなのか、産業廃棄物も混合されていたのか。

〈都市計画課〉

建設残土のみと確認している。

〈中田委員〉

施策5と6は、目標数値の設定に対して目標達成できていないのに A 評価。一方で、施策11と12は、目標数値は達成できているが B 評価。これはどうしてか。

〈事務局〉

施策5と6については、今後長い目で続けていく必要があるだろうということで A 評価としている。

施策11と12については、目標値は達成できているものの、エネルギー関係がトレンドであり、潮流に乗っている取組でもあるため、一層強化していくということで B 評価としている。

〈中田委員〉

施策7の下水道普及率が 64.9 となっており、全国平均の 80.1 を大幅に下回っているが、その現状を伺いたい。目標としてはクリアしているが、そもそも目標値が低いのかなと思った。

〈環境保全課〉

高知市生活排水処理構想について、2017 年10月に基本方針を改定し、公共下水道や合併処理浄化槽等の生活排水処理施設の普及率を 2015 年に 85%を目標にしており、10年後の 2027 年に 93.2%、20 年後には 97%を目標として計画を進めている。

〈池田委員〉

施策15「災害対応力の強化」について、どういつもりでこの書きぶりとなっているのか知りたい。森林の荒廃等による新たな災害発生とは何か確認をしてほしい。迅速な初動対応の整備の記載については、森林組合にも相談をしてもらいたい。

〈事務局〉

会議終了後、関係部署と協議を行う。

〈北山委員〉

施策1「生物多様性の保全」は、アニマルランドの活動に内容が偏っている。一方で、施策16「環境学習の推進」では、ホテルの観察学習会等があるので、施策1の中でもいろいろな生物に関する保全があると思うので、もう少し幅広く成果を見た方が本来的な生物多様性に繋がるのではないか。

〈事務局〉

第三次計画を考える際に反映させていきたい。

〈北山委員〉

施策14「良好な景観の形成」で、都市美デザイン賞などを実施しているというところまでは分かるが、それを市民や事業者がどれくらい積極的に取り組んでいるかという検証部分がなく、取組の積極度などが見えにくいという風を感じたので、そのあたりも合わせて検証いただくと、今後進展する部分があるのではないかと思った。

〈事務局〉

民間の事業者の協力や連携等も必要になってくるので、今後調整していきたい。

## (2) 第三次高知市環境基本計画の策定について(資料4～6)

〈池田委員〉

環境部以外のところを検討していく際に、守備範囲を良い意味で明確にし、しっかりやっていくという姿勢で、向こう10年の計画を策定した方が良い。

〈須内委員〉

ウクライナ侵攻によって、ヨーロッパでは石炭発電所の再稼働や、アメリカではシェールガスを増産という、状況が変わってきていると思うので、記載するかどうかは別として、それを踏まえて第三次計画を作っていただきたい。

〈川田会長〉

コロナで世界中震撼したが、今度はウクライナで大変な問題が起こっており、一気に世界の経済、あるいはサプライチェーンが変わってきたような感じがする。今後、高知市環境審議会でのどのように位置づけ、第三次計画に取り入れていくのか、配慮しておく必要が

ある。また、エネルギー政策等が変化しているように、基本的な考え方の基本自体が変わってくる可能性もあり、そうすれば市民の意識も変わってくるかもしれない。

〈武藤委員〉

第二次計画で中間年で評価や見直しをしたなど、計画について議論をした経過があれば教えてほしい。

〈事務局〉

第二次計画では中間の見直し等を行っていない。第三次計画については、状況が変わった場合には見直しの必要性が出てくるかもしれないので、そのような検討は必要だと考えている。また、2030年という目標年度があるが、目標達成をしたから終わりということはおそくないと思うので、今後も次の取組に向けてどう考えていくかというのは必要な視点だと思っている。

〈中田委員〉

商工振興課の中心商店街活性化委員をやっている。今まで以上に SDGs や環境政策が市民に近くなっており、まちづくりも常にリンクをしているため、ぜひ庁内で共有してほしい。また、LINE の共有があったが、民間の興味も高まっているので、広く周知し実効性をあげていくという視点で、情報共有などについても第三次計画に盛り込んでほしい。

〈事務局〉

庁内連携については、いろいろな視点から指摘されており、我々も取り組んでいるところなので、引き続き取組を進めたい。また、広報の必要性については、従来の広報手段に加え、より身近な手法を使っていくことも意識しながら、第三次計画を検討していきたい。

〈堀澤委員〉

エネルギー関係について、温室効果ガス実質ゼロを強力にプッシュしているように感じた。エネルギー使用量の数値はあるが、評価にはあまりなかった。公共交通のトーンが薄いと感じたので、その点どう考えているのか。やはり使用量を削減することが1番重要じゃないかと思う。

〈事務局〉

エネルギーの視点の持ち方はどんどん新しい考え方も入ってきているので、そういうことも意識しながら第三次計画に繋げていきたい。

〈堀澤委員〉

施策3「里山の保全と再生」の C 評価は深刻に思っており、コロナでこれまでの繋がりがスタートラインに戻ったような気がしている。今後10年経つとどうなるのかも含めて、理念を作り直す機会だと考えている。

〈事務局〉

現在、鏡川流域関係人口創出事業に取り組んでおり、今朝の新聞でも紹介いただいた。高齢化は進んでいるので、関係人口の創出により人と人とのつながりをより強化していきたい、みんなでできるところからできることをやっていきたいと考えている。

〈岡林委員〉

廃棄物の削減が重要な問題であると思うが、高知市ではどのような形でも出せるようになっており、ごみを削減しようという気が失せると感じる。第三次計画では、具体的にどうすれば削減できるのかということをも市民に提案できたらいいと思う。

〈川田会長〉

これまでの3Rは、社会経済のごみを有効利用していこうという産業基盤の整備という形だったが、循環型社会というキーワードをベースに産業振興と環境政策を結び付けられるような視点を入れていく必要があるのではないかと思う。循環型社会あるいは共生社会は、やはり産業振興とセットでもって対応していく必要があるのではないか。

〈長尾委員〉

高知市環境基本条例を改めて読んだうえで、第三次計画の策定に着手してほしい。

〈長尾委員〉

施策3「里山の保全と再生」について、里山保全条例を策定した張本人である。その後施策を展開していると思うので、できればC評価からB評価にしてもらいたい。

〈事務局〉

事務局においても評価については悩んだところだが、本事業は市民の協力を得て実施している事業なので、行政としては一歩引いた厳しい評価をした上で、次に繋げていくという意図でC評価としている。

〈田中委員〉

施策評価が市民としての感覚と乖離しているように感じた。計画なので仕方ないが、もっと市民目線まで落とす啓発や、きめの細かい計画が、市民にとっては必要じゃないかと思った。第三次計画では啓発部分をもう少しきめ細かくやっていただきたい。

〈松本副会長〉

現在は基本的に総合評価というトータルの評価をしている。第三次計画では、実際にやっている部分の評価と、それを踏まえて次にどうするかという評価に分けてもいいのではないか。

進捗管理の仕組みをどうするか。環境基本計画は理念計画であり、とりまとめという機能を最大限に活用してはどうかと思う。個々の良し悪しについては、個別計画で進捗管理をした上で、全体の体系に過不足がないか、外部の環境変化や国の政策変更等に対応できているか等、俯瞰的な計画とすることを、役割とした方が適切かつ効果的だと思う。

社会経済との接点についてどう記述していくか、総合計画とのリンクはもちろん、まち・ひと・しごと創生総合戦略の文脈ともどうリンクしているかをある程度整理した方がよい。

スケジュール感について、第2回目までの時間が空くため、その間事務局と委員の間でやり取りをする機会を作ると、より充実した計画ができると思う。